

湘友会報



湘南高等学校湘友会事務所
 <月・水・金 13:00~16:00 在室>
 〒251-0053
 藤沢市本町3-1-3 湘南ビル301
 電話・FAX 0466-50-0386
 shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
 http://www.shoyukai.org

人・生き生き



毎日新聞社記者
 國枝 すみれ さん (61 回)

< 湘南高校時代までの思い出 >

私は東京目黒に生まれ、すぐに藤沢市鵠沼に移り住み、学校は鵠洋小学校、鵠沼中学校、湘南高校へと進みました。鵠沼中学校時代の話ですが、昨年度の『人・生き生き』に登場しました福里真一さん(62回)も話していたとおり、当時はマスコミで言う「校内暴力」の全盛期みたいな状況でした。不良生徒は授業などは聞かず、学校の窓ガラスやトイレをバリバリと壊し、妊娠していた女性の先生を廊下で通せんぼしたりしていました。そういう彼らの実態を見て、「幼稚っぽい。いい加減にしなよ」という気持ちでいました。しかし、そういう私はというと、双子の姉妹であったため「関東の山猿きょうだい」と言われたくらい、普通でなくおてんばでした。教室の鍵がしまっていると、制服のスカートをはいたまま窓によじのぼって開けるような生徒でした。

湘南高校に入り、新聞部に入部しました。当時は部員は少なく、私の学年は男子1人、女子3人という状況でした。その後1人だけ女子が入部してくれましたが、部員はこのように非常に少なかったです。

しかし、活動は大変忙しく、湘南高校で行われていたマラソン大会、合唱コンクール、水泳大会、球技大会等の学校行事ごとに号外を年4回出していました。自分たちは肝心のイベントには熱中できなかったのですが、部室にこもって、当時「ガリ版」と呼ばれた謄写版で記事を書き、必死に輪転機を回しました。イベントが終わって生徒が会場から退出してきた時に、刷ったばかりのほっかほっかの号外を手渡しました。「組がアベック優勝！」等、結果がすぐ書かれていたので大変喜ばれました。

湘南高校は、本当に学校行事が多い学校でした。その中で湘南生は、みんなで元気よく神輿を担ぐみたい

に、どのイベントにも全力投球していく訳ですが、私は彼らとはちょっと離れた感じで見ていました。湘南生は期待されている役割を完璧に演じているような生徒、何事にも意欲があるような優等生が多く、そんな生徒でいることは疲れるなと思っていました。

でも学校生活は楽しかったです。気が合う先生がいて、しょっちゅう職員室に遊びにいきました。当時は希望を持たせるようなオブラートに包んだ言い方ではなく、割とはっきりとおっしゃってくださる先生方が多く、中でも東京大学で物理学を専修した数学の涌井貞美先生の思い出があります。私は数学が苦手だったのでよく涌井先生の所に聞きにいきました。先生はサラリーマン教師を自認している割には何事も熱く語る先生で、私が筑波大学で文化人類学を専攻したいと進学の希望を語ったところ、「文化人類学では将来食っていけない」とはっきり言われました。

私は「将来、適性から見て普通のOLにも、家庭の主婦にもなれないし、何かキャリアになるものを見つけよう」と考えていたので、それでは政治学を目指そうということになりました。

また、交友関係にも恵まれ、特に1年5組の時の仲間とは今でも交流を続けています。大学の友人とは違って、お互い根っこがわかっていて安心感があり、いつでも心の支えとなってくれるし、職種も違うけれど、みんながんばっているから、じゃあ私もがんばろうという気持ちになります。

< 留学を通じて視野を広め、新聞記者の道へ >

大学は慶應義塾大学法学部政治学科に進みました。英会話サークルのESSにどっぷりつかりましたが、海外留学していないと、語学は本格的に身に付かないとわかりました。4年時、アメリカのメリーランド州立大学に交換留学しました。最初の半年ぐらいは授業が全然わからなかったもので、よく先生の所へ講義の内容確認に押しかけていました。本当に必死に勉強しました。図書館では床にすわって本を探している時、そのまま寝込んでしまい、周囲の学生に「危ない」と言われたこともありました。慶應大学のゼミは、小此木政夫教授が担当する国際政治でしたが、私は米国にきてから社会学関係への興味をさらに深めていました。米国では売春婦や薬物中毒者やカルト犯罪など、社会

くにえだ すみれ

昭和 42 (1967) 年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。毎日新聞社入社。英文局、西部本社、ロサンゼルス支局を経て、現在、夕刊編集部記者。

から逸脱した人々について主に研究しました。湘南高校時代、興味・関心を持っていた社会学・犯罪学といった分野にもどっていたのです。

就職については、大学で社会学の学者になることも考えましたが、一生、大学で本に囲まれて暮らすのではつまらないと思い、ジャーナリストになろうと思いました。それもネイティブではないので、アメリカでジャーナリストにはなれない。英語で取材しても書くのは母国語で書くジャーナリストになろうと考え、帰国を決心しました。

しかし、実際、就職戦線では苦労しました。テレビ局や出版社の最終役員面接で落とされてしまっていたのです。入社することになる毎日新聞社での面接では、「某テレビ局では思想チェックで落とされたと思うのですが」とはっきり言っても採用してくれました。毎日新聞社の度量の広さには感心し、ここなら自分の好きなことをさせてくれるだろうと思いました。

< 新聞社での様々な活動 >

母国語の日本語で書こうと思ったのに、配属されたのは英字紙「毎日デイリーニュース」を扱う英文局でした。留学経験からこの部署に配属されたと思うのですが、正直言うと地獄のように辛い日々でした。

9ヵ月程度の留学で身につけた英語力では歯が立たず、短い記事1本を翻訳するのに3時間ぐらいかかりました。毎日がつたない英作文を作っている状態で、吐き気がしました。しかも私より年上で日本人の労働感覚とずれている外国人スタッフ40人が同僚で、とても大変でした。外国人のリバイザーは私がひどい英語で記事を書いても、取材した内容が光っていると面白がっていい文章に直してくれるので、私は必死でいいネタを探すことを覚えました。結局この部署には7年間いました。本紙(毎日新聞の日本語部門)に異動で

きた時には「巖窟王だね」と言われました。

外信部と夕刊編集部の兼務となりましたが、今まで英語ばかりで日本語を書いたことがなかった私が、いきなり長いページを書く訳ですから、ひよこどころではなく、卵の殻にひびが入った程度の状態です。当時のデスクにはしぼられましたが大変感謝しています。

1年半後、やっと夢がかなってサツ回り(警察担当)になりました。西部本社社会部の福岡県警担当でした。4月に配属されると、傷害事件、強盗事件、強盗殺人事件と次々に事件がレベルアップし、5月には17才の少年が引き起こした西鉄バスジャック事件が起きました。県警一課を担当し、看護師たちが夫に空気を注射して殺した事件や、家族ら7人を監禁・拷問して殺した事件など凶悪事件も起きました。私の担当している部署でいつも大事件が起きるので、「グラウンド・ゼロ(爆心地)の女」とあだ名されました。

毎晩、夜中過ぎまで何時間も警察官の家で待つ生活です。朝4時に他社に「抜かれたぞ」とFAXが入ってネタ元の人に「あの記事は本当ですか」と確認に行くときは屈辱でした。土日も関係なく、殺人事件が起きれば現場に飛び出します。犯罪者、被害者とも直接関わります。殺人事件の被害者の家に話を聞きに行つて、遺族に突き飛ばされて、泣きたくなくなったこともあり。また、一緒に取材しているテレビのワイドショー関係者の無神経な発言に腹を立て、「自分はそのようにはなりたくないな」と思ったこともあり。しかし、記者としてスクープ記事を書いて他社を出し抜くことは快感です。ここには3年間いて、警察関係者とは家族のような関係になっていました。

< ボーン・上田記念国際記者賞を受賞 >

2003年からアメリカのロサンゼルス支局に移りました。2005年度にボーン・上田記念国際記者賞を受賞

2009年度湘友会総会のご案内

平成 21 年 6 月 20 日(土) 藤沢産業センター

藤沢駅徒歩3分 ☎0466-21-3811

受付開始	10:00 ~	
総会	10:30 ~	6F 研修室1・2・3
イベント	12:00 ~	
懇親会	13:15 ~	8F 情報ラウンジ(会費:3,000円)

イベント: 鈴木 毅(全39回・元劇団四季俳優)
「ミュージカル俳優 沢木 順の歌とトーク」

懇親会では、校歌祭の練習も行います。



しました。この賞は日米のマスコミ界が基金を出し、国際報道に貢献した報道者を表彰するため 1950 年に創設されました。2005 (平成 17) 年 6 月 17 日、毎日新聞朝刊の一面「原爆ルポ 60 年ぶりの発見」を始めとする 7 ページの記事が表彰の対象となりました。

アメリカ人のジョージ・ウェラー記者は、長崎原爆投下の 1 カ月後、無許可で現地に入りその惨状をルポしたのですが、GHQ の検閲で公表を許されませんでした。その原稿・写真を戦後 60 年経って発掘、取材したものです。記事が原爆被害の悲惨さの再認識や、核の問題を問い直す契機になればいいと思います。

取材のきっかけは、原爆関連の集会に来ていた 17、18 才のヒスパニック系のアメリカ人に「ヒロシマ、ナガサキってどこ?」と聞かれて、ここまで原爆の記憶が風化しているのか、とショックを受けたからです。戦後 60 年にあたってのこともあり、核兵器研究に携わった研究者や原爆報道に携わった記者たちの記録をたどり始めました。ウェラー氏に関しては、幻のルポは残っていても日記くらい残されていないか、と遺族に電話をかけ、ウェラー氏が紛失したと信じて残念がっていたルポが、彼の死後数年たって、作家となっていた息子によってイタリアの家から発見されていたことがわかったのです。息子は米国で原稿を出版しようとしていたのですが、米国では注目されず、私の取材で本格的な取材となりました。(その後、米国で出版され、日本でも翻訳本が出ました。)

原稿が発見されたと知って、私はすぐにボストンに駆けつけ、茶色くぼろぼろに変色したカーボン紙を手に、その家で 8 時間も読んでいました。ウェラー氏の

文章は上手ではありませんでしたが、被害者、医師を实名で正確に書き留めており、日本での裏付け調査で大いに役立ちました。また、この時「新聞は歴史の記録なのだ」と、改めて新聞の重要性を感じました。

アメリカには 5 年間いました。大統領選挙を 2 回取材し、ブッシュ政権からオバマ政権へ移り変わる過程を取材できたのは面白かったです。私がいる間、アメリカ社会はどんどん悪化していきました。私は 2006 年頃からオバマ氏の取材を始め、大統領候補だったオバマ氏が、「強いアメリカから尊敬されるアメリカへ」の転換を主張し、行き詰まり感を感じていた米国人から支持されていく過程が実感できました。

私が好きな取材は、知らない町のレストランに入って食事をしながら毎日 30 人、40 人と町の人と話すことでした。アメリカ人は率直なので、そうやって話を聞いていくと、世論調査などよりずっと早く、正確にわかりました。イラク戦争や宗教票

に頼ったブッシュ政権に対する絶望や、新人のオバマ氏に期待を寄せざるを得なかった彼らの気持ちをつかむことができました。

私は変革を恐れないアメリカ人の勇気が好きです。1 年前に東京に戻り、夕刊編集部記者として勤務しておりますが、日本人はアメリカ人に比べて、後ろ向きだな、と残念に思うことがあります。

大変ありがとうございました。私たち同窓は、國枝さんのご活躍を今後も祈念しております。

<2008 年 12 月 13 日 新橋第一ホテルにて>
聞き手: 神谷紀一郎 (34)・江藤勝正 (36)・柏木操男 (51)
(文責: 柏木)



皆様のご出席をお待ちしています！

2009 年度は、卒業回数末尾「9」の方が輪番学年にあたっています

全日制: 39・49・59・69・79 回生、定時制・通信制: 9・19・29・39・49 回生の皆さん、総会運営の輪番参加と、「10 年会費 5,000 円」の納入をよろしくお願ひします。

1952 年以降のご卒業で、今までの輪番年に「10 年会費」未納の方は払込みをお願いします。湘友会支部、同期会、部活動 O B ・ O G 会等の諸会合や、個人からの「寄付」もお待ちしています。郵便局の払込取扱票が必要な方は湘友会事務所までご請求ください。

郵便局振込先

口座番号: 00250 - 4 - 14177 (右詰めに記入)

加入者名: 湘友会

金額: 5,000 円

* 通信欄に「10 年会費」「卒業回数」を明記してください。

来年 2010 年の総会運営は、卒業回数末尾「0」の方が中心になります。全日制: 40・50・60・70・80 回生、定時制・通信制: 10・20・30・40・50 回生の皆さん、出番です！ よろしくお願ひします。

湘南高校 Now

この1年(2008年度)も湘南高校は「輝く湘南、挑戦する湘南」を目指し、教育に取り組んできました。生徒の活躍を月ごとにご紹介します。

4月 入学式、陸上記録会

8日(火)入学式が行われ、319名の新入生がこれからの3年間に期待に胸をふくらませて入学しました。

23日(水)に陸上記録会が平塚陸上競技場で開催されました。競技はいうまでもなく応援にも力が入り大いに盛り上がりました。走り高跳びで大会記録が生まれました。



6月 文化祭

14日(土)15日(日)に文化祭が実施されました。昨年度までは、全・定・通の三課程での実施でしたが、通信制の閉課程に伴い、今年から全・定の合同開催となりました。文化部の日頃の活動の成果が発表され、多目的ホールで行われる発表には、開場前から多くの方の長い列ができました。今年の文化祭は、6月20日(土)、21日(日)に開催されます。



7月 合唱コンクール

10日(木)にハーモニーホール座間で1年から3年の各クラスが美しいハーモニーを響かせてくれました。結果は3-3と2-7の2クラス優勝で、近年まれに見る結果となりました。今年度は7月16日(木)に平塚市民センターで行われます。

9月 体育祭

前日の雨が心配されましたが、15日(月)に体育祭が予定通り行われました。5000人を超す方々がお見えになりました。生徒は先輩から引き継いだ体育祭を必ず成功させようと、長い時間をかけて知恵を尽くし、額に汗をしこの日を迎えました。仮装、バックボード、大道具、競技と、青春の力を見せつけてくれました。



今年度の体育祭は9月19日(土)に実施の予定です。

10月 修学旅行

昨年度は10月21日(火)から25日(土)の日程で広島と岡山を宿泊地とし班別行動を主体とする修学旅行が実施されました。生徒は広島、宮島、倉敷、岡山を中心に、班別の行動を行いました。宿舎に戻ってきた顔には、疲労と共に満足感が感じられました。

(注: 集合写真は割愛しています)

11月 対組駅伝大会

14日(金)に素晴らしい晴天のもと辻堂海浜公園で駅伝大会が行われました。4月から始まった対組競技の最後を飾る種目で、クラスの応援にも力がいりました。

1月 スキー教室

3日(土)~6日(火)に1年生約120名を対象に菅平高原スキー場でスキー教室が実施されました。ほとんどの生徒が初心者でしたが、最終日の自由滑降では滑れるようになっていたそうです。

3月 卒業式

6日(金)卒業式が行われ、318名がこの3年間の思い出を胸に湘南を巣立っていきました。卒業生代表の言葉では卒業生が一体となったメッセージがあり、思い出深い式となりました。

個人の活躍としては、フェンシング部3年の杉山君が、大分国体に神奈川県代表チームの一員として参加し、団体優勝に寄与しました。2年生の引本さんが、県の代表としてアメリカ・メリーランド州派遣に参加、同じく2年生の塚本君が、読売新聞社主催の海外プロジェクト探検隊でベトナムにレポーターとして派遣されました。

最近の様子はホームページで是非ともご覧ください。

<http://www.shonan-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

(全日制前教頭 遠藤)

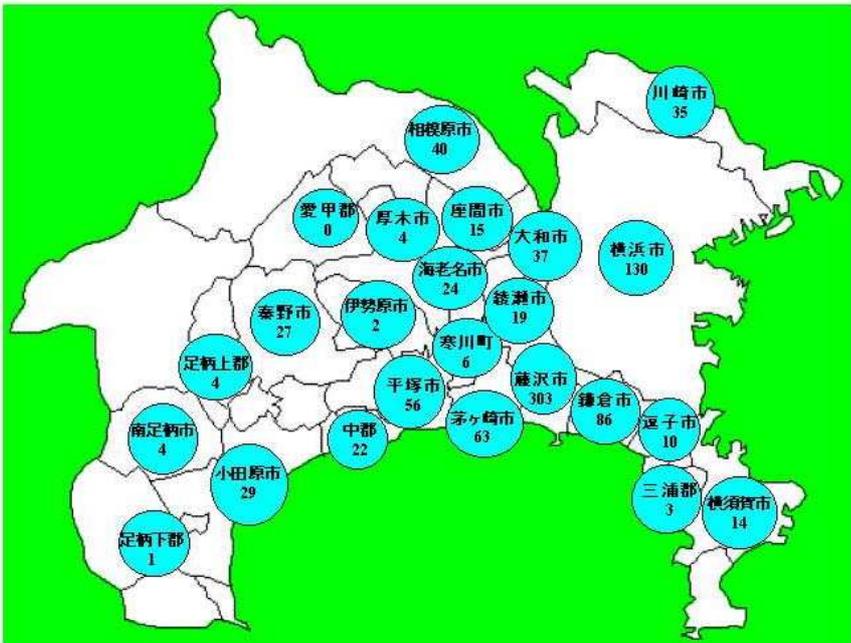
生徒数 (2009年4月1日現在)

	1年	2年	3年	計
男子	178	188	187	553
女子	139	134	128	401
計	317	322	315	954

定時制が 単位制高校として開校

湘南高校定時制は、2009年4月より、学年の区別を設けず、自分の進路や、興味・関心に応じて学びたい科目を選択し、必要な単位を修得できる「単位制普通科」として生まれ変わりました。今年度の新入生は、男子90名 女子69名 計159名でした。

生徒出身中学校 (市・郡別人数)



湘友会新入会員数

2009年3月の湘友会新入会員数は、全日制318名、定時制62名、合計380名でした。

< 湘南高校HPより >

数字は2008年4月1日現在のものです。私立・県外中学校の出身者数は含みません。

進路状況 主な大学の合格者数

大学名	合格者数	大学名	合格者数
北海道大	3	首都大東京	11
東北大	6	横浜市立大	12
筑波大	6	県立保健福祉大	2
千葉大	8	福島県立医大	1
東京大	8	早稲田大	111
東京学芸大	7	慶應義塾大	65
東京農工大	5	上智大	35
東京工業大	8	立教大	60
お茶の水女子大	3	明治大	125
一橋大	7	法政大	31
横浜国立大	17	中央大	51
新潟大	1	東京理科大	60
京都大	1	明治学院大	23
神戸大	1	青山学院大	48
信州大	2	津田塾大	4
鳥取大	1	学習院大	7

(2009年4月10日判明分)

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、原則として名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号、住所は削除。ただし、会長、副会長、校長先生、副校長先生、往時の先生方、著名な方、講演者、寄稿者、故人の姓名は原文のまま。

写真は、個人を明瞭に特定できるものは削除。ただし、会長、副会長、校長先生、副校長先生、往時の先生方、著名な方、講演者、寄稿者、故人はそのまま掲載。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

湘友会会員の皆様へ

湘友会会長 田辺 克彦



私は、昨年6月の湘友会総会で会長に選任された後、支部総会や委員会のいくつか、母校の体育祭、神奈川県立高校の同窓会による「青春かながわ校歌祭」などに出席・参加させて頂いて、

湘友会の活動が活発に行われている様子を目の当たりに見ることができ、大変心強く思いました。母校では、従前からの「キャリア教育講演会」に加えて昨秋から毎月1回土曜日に、専門的分野について関心を持たせることなどを目的として、希望者を対象に「土曜講座」を開講しました。湘友会のサポート委員会では、この「土曜講座」にも各界で活躍する卒業生の中から講師候補を推薦しているのですが、母校の卒業生は社会の様々な分野の第一線で活躍されている方が本当に多数いらして、推薦する人材にこと欠くことは全くありません。勿論卒業生各自の努力があつてのことでしょうが、母校の教育成果の現れであるとも思われ、その素晴らしさに改めて感心しているところです。

ところで、会長就任の際にも話しましたとおり、私の会長としての最大の任務は、母校の歴史・伝統を現在に、そして将来に伝えることができる貴重な校史の資料を整理・保存し、展示・公開する資料館等の施設を建設することだと考えています。

1921年(大正10年)に湘南中学として創立された母校は、初代校長の赤木愛太郎先生を始めとする先生方の変なご尽力で、その教育は全国的に注目され、高く評価されてきました。事実、母校は現在に至るまで文武のバランスの取れた有為な人材を多数輩出してきました。従って、母校の資料は単に母校関係者の間だけでなく、我国の(後期)中等教育界の中でも大変貴重な資料といえるものです。ところが、1958年(昭和33年)の火災によって校内の貴重な資料は殆ど焼失してしまい、その後各方面からの資料提供の要請になかなか応じることができませんでした。そこで、湘友会では、母校の創成期からの資料を蒐集・整理するための委員会を2年程前から設け、精力的に資料を集めてきました。しかしながら、現在この資料を展示する施設がなく、有効には利用できない状況にあります。

そのため、湘友会で、2011年(平成23年)の母校開校90周年の記念行事として、貴重な資料を整理・保存し、展示・公開することにより母校が培ってきた歴史・伝統を将来に伝えていくことを目的とした資料館等の施設を母校に建設したいと考え、去る4月に臨時役員会で資料館建設等についての委員会の設置を承認して頂き、いよいよ本格的に建設についての検討を行うことになりました。その折、神奈川県においても今般条例を制定して「まなびや基金」を創設し、同窓会や企業等から寄付金を募りその基金を財源として学校の要望に応じて教育環境の充実を図るとの方針が打ち出され、その第1号として母校の資料館建設の事業が考えられるとの意向が伝えられました。

伝統の継承

湘南高校校長 川井 陽一



校長会役員あるいは高野連の役員を務めている関係もあり、マスコミ関係の方や他県の高校の校長と話をすることがしばしばあります。「湘南」を名乗ると、一様に好意的な、また敬意を込めた反応をいただきます。ありがたいことだと思います。これ

も、赤木先生以来の「湘南」の歴史、伝統への評価であり、そして、その下で研鑽され、それぞれの分野で活躍された、また現在活躍されている卒業生の方々への評価であり、敬意であると感じています。

長年にわたって培われた「湘南」の歴史は、現在の生徒にも連綿と引き継がれています。文武両道の伝統の下、学習に部活動に学校行事に全力で取り組む中で、生徒は学力のみならず総合的な人間力を培っています。また、天野前会長が中心になり始められた「青春かながわ校歌祭」は、「校歌」をとおして「湘南の伝統」を伝えていただく機会になっています。あるいは、昨年度より湘友会の全面的なご支援でスタートした「土曜講座」において、生徒は、卒業生の方々のお話から、自らの生き方やものの見方について、また社会貢献、地球規模で考えることの重要性等について多くの示唆をいただいています。同時に、「湘南の精神」も学んでいるように思います。これも、継承のひとつの形と感謝申し上げる次第です。

現在検討されている校史資料館は、目に見える形の歴史、伝統の継承という意味で大きな意義を有すると思っています。

ところで、定時制は今年度より単位制の新校になります。今まで定時制において培ってきたものを生かしながら、さらに教育内容の充実を図ってまいりたいと思っております。

全日制は、学力向上進学重点校指定を受けて3年目を迎えます。湘南高校がより信頼を得るためにも、また湘南高校が目指す全人教育を追求するためにも、生徒の希望進路の実現、言い換えれば、進学実績への信頼が不可欠と思っています。この点は、現在の最重要課題と捉え、全校挙げて取り組んでおります。

「湘南」が、多くの方々から、好意的な敬意を込めた眼差しでこれからも見ていただけるために、今私どもに課せられているものの大きさを自覚しながら、皆様のご期待に応えるべく努力してまいります。引き続きご鞭撻とお力添えを切にお願い申し上げます。

そこで、湘友会では、今後県当局や母校と十分に協議をさせて頂き、建設委員会で様々な点を検討して計画案を策定し、役員会、総会で審議して行きたいと考えています。出来るだけ早期に計画案を策定したいと存じますので、会員の皆様におかれましては何卒ご理解の上、絶大なご協力を頂きたく、お願い申し上げます。

田辺 克彦 氏(36回) 第7代 湘友会会長 に就任

6年に亘り湘友会をリードし、新時代にふさわしい確固たる同窓会組織を構築した天野氏から田辺克彦氏に会長が引き継がれました。

天野前会長は、校長と協議を重ね、湘南高校流ともいう「OB・OGによる現役生向けの教育支援」キャリア教育を開始、その効果大なるをもって、昨秋からは更に月1回の「土曜講座」の開催にまで発展させ、同窓会と学校との連携を強化させてきました。

一方、外にあっては神奈川県立高校校歌祭をスタートさせる等、その卓越した企画力、行動力は、県内他校同窓会との結束を強めただけでなく、湘南高校の名

を更に高めました。

2007年12月に湘友会役員会は会長、全副会長、全委員長、事務局長に一部支部長を加えた10名からなる「次期会長候補者推薦委員会」を設置し、昨春の同委員会にて次期会長候補に田辺氏を全員一致で推薦し、平成20年度総会で田辺氏が会長に選出されました。

田辺克彦氏は教育に人一倍の情熱を有するのみならず、弁護士30数名を擁する「田辺総合法律事務所」の代表を務める我が国法曹界のリーダーでもあります。

時代が大きく変革する現代にあって、湘友会はまたまた素晴らしい人材を会長に得ることが出来ました。

湘友会では、2007年(平成19年)に「湘南高校 校史資料蒐集整理委員会」を設け、母校の校史資料の蒐集に皆様方のご協力をお願いしてまいりました。

お陰様で元教諭の方々、野球部(故平井 勤氏 [27回]のご遺族より全国優勝時のコレクション等)及び吹奏楽部のOB会、また湘南中学卒業生をはじめ大勢の方々から、昨年末現在「1500点余り」の貴重な資料をご提供いただき、整理する段階にまいりました。

特に長年に亘り湘南中学、高校の教諭として奉職された故蟹江忠彦先生、故春原淳三先生のご遺族より本校創立時からの学校の記録、生徒の活動に関する資料、印刷物等々教育史上貴重な資料を多数寄贈していただきました。

従前より、多くの寄贈絵画、文書などは校舎3階の大会議室前の廊下に展示されておりますが、ここは大会議室への通路であり、平素ドアが施錠されているため見学に際しては、許可を得るのは当然のことながら、解錠していただかないと見学出来ません。

2007年の湘友会総会当日には、当時の教頭がちょうど運営担当学年に当たっていたこともあり、ギャラリーが特別公開されました。たとえ一部の資料とは言え、初めて目にする湘南の素晴らしい歴史の一コマ、思い出の品々は、多くの参加者を感激させました。

近時、雑誌社、テレビ局などより、戦前、昭

湘南高校 校史資料館 建設について

和初期の校舎の写真、各種資料の提供を求められることが度々ありました。しかし残念ながら、1958年(昭和33年)の校舎火災により多数の資料が焼失し、要望の資料を保持しておりません。

一例として、研究社から41回生の庭野吉弘氏(工学院大学教授)がその著書「日本英学史叙説」の中で「戦前の湘南中学はオーラル・メソッド『湘南プラン』、分割授業と少人数教育で全国的にも英語教育の中心的存在であり、1939年(昭和14年)、第一回岡倉賞(英学者岡倉由三郎先生を記念した賞)を授与され、しばらくは、全国から参観者が連日押しかける状況」と、当時の湘南の教育の実態を記載しており、その視覚的な参考資料として赤木愛太郎校長の写真、1933年(昭和8年)当時の湘南中学の校舎の写真の提供を求められました。まさに日本教育史上第一級の資料を有する湘南高校、湘友会は資料提供を求められる機会が多く、われわれはその負託に速やかに応える必要があると考えます。

加えて、湘南中学、高校と培ってきた歴史、伝統を在校生、教職員、保護者、地域に伝えていくことは、生徒の成長や社会の発展に資するところ大であると確信しております。

会員の皆様にも更に貴重な資料の提供をお願いすると共に、2011年(平成23年)に迎える創立90周年の記念事業として、「湘南高校 校史資料館」を是非実現したく、ご協力を請うものであります。

「青春 かながわ校歌祭」



校歌を通して愛校心を育み、在校生と卒業生の交流の場にしようと、「かながわ校歌振興会」(会長は、天野前湘友会会長)

が主催、県教育委員会が共催となり、昨年10月11日(土)よこすか芸術劇場で、第3回「青春 かながわ校歌祭」が、25の県立高校が参加のもと、開催されました。担当は、33回。現役の合唱部・応援団、教員、OB・OG合わせ約90名が、「青春の歌」「選手を送る歌」「校歌」の3曲を声高らかに歌いました。

今年度は、10月10日(土)厚木市で、第4回「青春 かながわ校歌祭」が開催されます。

母校への支援

キャリア教育

学校の教育計画に基づき、生徒の将来におけるキャリア形成に役立てることを目的として、2006年度から始めました。各学年の生徒全員を対象に、学年ごとのキャリア教育のねらいに沿って、各界で活躍している本校の卒業生による講演会を、年1回ずつ実施しています。

< 1年生 >

[2009年1月19日]

講師：大澤 孝征氏 (39回)

演題：「法曹の道ガイド
- 裁判は面白い! -」

経歴：弁護士



大澤 孝征 氏

< 2年生 > [2008年9月29日]

講師：神沼 克伊氏 (31回)

演題：「夢を持つ - 頭の良くないある科学者の回想 -」

経歴：極地研究所、総合研究大学院大学名誉教授

< 3年生 > [2008年6月30日]

講師：比企 能樹氏 (27回)

演題：「必死になれば二兎を追える」

経歴：北里大学名誉教授・慶應義塾評議員

土曜講座

キャリア教育の一環として、全学年の生徒(希望者)を対象に、各界で活躍している本校の卒業生を講師として、その専門分野に係わる講話をしていただきます。

生徒のキャリア形成の一助にすることを目的として、2008年11月から始めました。年6回実施予定です。

< 11月 >

講師：武谷 雄二氏 (41回)

演題：「私と医療」

経歴：東京大学教授、東京
大学医学部附属病院院長



武谷 雄二 氏

< 12月 >

講師：重村 一 氏 (38回)

演題：「40年の放送経験から後輩諸君に伝えたいこと」

経歴：ニッポン放送代表取締役会長

< 1月 >

講師：上田 誠 氏 (51回)

演題：「湘南高校を卒業してみて今思うこと」

経歴：慶應義塾高等学校教諭、同校野球部監督

< 2月 >

講師：相澤 益男氏 (36回)

演題：「創造的チャレンジで未来を拓こう」

経歴：総合科学技術会議議員、前東京工業大学学長

< 3月 >

講師：片倉 もとこ氏 (31回)

演題：「イスラームの世界から日本を考える」

経歴：前国際日本文化研究センター所長

定時制部会より

定時制部会長 杉浦 信次

1. 湘友会での活動

(1) 湘友会総会に参加

定時制部会では、総会を開催し、後に同日開催の湘友会総会に参加しました。昨年度は約40人の定時制会員が湘友会10年会費を納入しました。今年度は、9・19・29・39・49回生が輪番会員として総会の受付等を担当します。

(2) 湘友会入会説明会

湘友会への入会説明会を、3月3日(火)に3修生と4年生の卒業生に行いました。

(3) 補助事業など

10月4日(土) 体育祭に補助事業

10月11日(土)「第3回青春かながわ校歌祭」に参加 (よこすか芸術劇場)

2. 「進路セミナー」・「法律セミナー」の実施

キャリア教育講座を重視して、昨年9月5日(金)に「進路セミナー」を、3・4年生を対象に実施。また、12月1日(月)には「法律セミナー」を、生徒全員とその保護者並びに講師の同期生を対象に実施しました。

「進路セミナー」では、部で就職希望者、進学希望者、進路未定者の3部門に分かれた進路別講演会を行い、部で進路に応じた実践的な個別指導として、面接指導・小論文指導・卒業生とのシンポジウムを実施しました。学校職員によるビデオによる進路指導、個別相談なども併せて行うことで、生徒の受け止め方も定着し、前向きな意見交換もあり、共同による「共存感」を得る良い学習の場でした。

「法律セミナー」では、社会保険労務士・佐相氏(定14回)(写真)による労働意識の高揚を促す「年金と自立」をテーマとした講演を行いました。多種多様な資格を有する体験談と苦労話を糸口に年金制度の全体像の説明に入り、年金の意義、その特性と機能、働くことの意義と目的、希望の業種と職種、求められる知識・技能、そして正規・非正規社員の賃金格差による社会の将来像等、時勢を踏まえた具体的な話に、生徒達は真剣に聞き入っていました。講師の歌う岡村孝子の「夢をあきらめないで」の歌に生徒からの温かい手拍子が加わり、先輩後輩の意志の共生が感じられました。女子生徒からの「私達が65歳になった時、年金って本当に出るんですか...?」という質問には我々大人と同様の切実な真剣さが窺われ、問題提起の波紋が広がったことを実感しました。今後も学校の意向を踏まえ、セミナーを計画したいと考えています。



通信制同窓会(むつみ会)より

むつみ会会長 若命徳達

ありがとう 60年

昭和23年に誕生した湘南高校通信制は、昨年3月の卒業生を最後に幕を閉じました。

私は昭和33年に入学しましたが、当時は高校に行きたくても家庭の事情で進学を諦めた人たちが、中学を地方で卒業して県内に就職した人たちが主でした。年齢も10代から50代位まで幅広く、親と子が机を並べているような光景も珍しくはありませんでした。当時は労働条件も悪く、日曜日仕事のため、スクーリングにも登校できずに学校をやめてしまう人が多くいました。

彼らはまじめで、黙々と働き腕を磨き、今は独立して若者を育てている人も大勢います。入学がもう少しずれていたら、「学ぶことのしあわせ」を味わえたのではと残念に思っております。

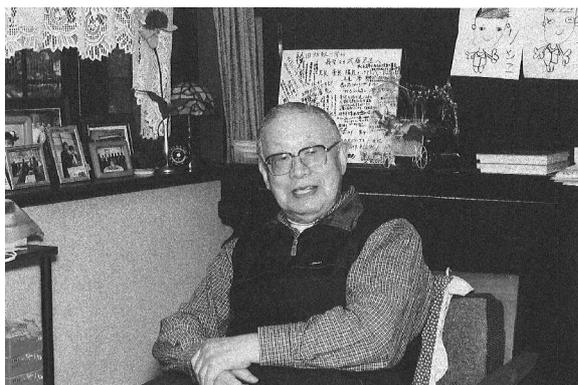
通信制が60年の永きにわたって続けてこられたのは、先生方のご指導はもとより全日制・定時制で学んだ多くの人(現会員)のご理解・ご協力が大きかったのではと思います。運動部で大会が近いので練習をしたいところですが、通信制が授業で体育館を使用して思うように練習ができなかったこともあったと思います。1つの学校に3課程で過ごせたのも全員に思いやりがあり、お互いに理解できたからではないかと感謝申し上げます。

この60年の「ありがとう」を形にして残したく、1月に記念碑(写真)を建立させていただきました。場所は元通信制の職員室の下で、プールのそばです。この記念碑ができ上がるまでには校長先生をはじめ先生方のご指導、身に余るご協力を賜り、また湘友会には会長はじめ幹事の皆様、事務所の皆様のご理解とご協力をいただき、むつみ会員には建立資金のご協力をお願いしました。このように3つの輪が1つになり、記念碑は完成致しました。計画から完成まで大変なこともありましたが、湘南関係者の温かさが脳裏から離れません。この記念碑が湘南高校通信制が存在した証として後世に伝えられ、むつみ会員が在学中のパワーを頂戴できる場所になると確信しております。

これからのむつみ会はどのように活動していったら良いのか、どのようにしたら湘友会に貢献できるか等、むつみ会員の知恵が必要です。今後とも急ぐことなく歩んでいきますので、皆様のご指導をお願い致します。



先生方の湘南回顧録



平塚市の自宅で（2007年11月）

わが人生の激動期を振り返って

武藤 孝男（在任期間：16年3ヵ月）

私は昭和8（1933）年4月、旧制の湘南中学に入学し、昭和13年3月卒業した第13回生である。もう70年以上昔のことになる。

昭和7年4月、平塚町が近隣の2、3の村を合併して人口3万余の市制を施行した。その年の5月に大磯の坂田山で心中事件があり、のどかな田園地帯に「天国に結ぶ恋」として一躍有名な事件となった。

慶応ボーイの五郎という学生と静岡県産の資産家の娘八重子が、許されない結婚に悲観し自殺を図った事件だった。当時の新聞には漢字はすべてルビが付けられていて、小学校の5、6年生でも容易に読むことができた。

今や、映画化されまた流行歌にもなった「天国に結ぶ恋」も次第に忘れ去られ、この世の恋のはかなさが思い知らされる。時折、カラオケバーに誘われるが、「天国に結ぶ恋」をリクエストしても「そんな曲目は知りません」という素っ気ない返事に出くわすだけである。「『湖畔の宿』ならあります」というので、今はそれを唯一のレパートリーにしている。

ところで、私が湘南中学校で学んだ5年間は、大東亜戦争の前哨戦となった日支（日中）戦争のさ中であり、上海では敵の鉄条網を爆弾を抱えて自爆突破した「爆弾三勇士」をたたえる軍歌が作られた。今でも思わずこの軍歌を口ずさむことがある。

私は湘南中学に入学して初めて英語を学んだが、当時、赤木校長の方針で英語教育に重点が置かれていた。入学直後の英語の授業は各組二分され、25人編成で、数々の優秀な英語の先生が教えておられた。授業中は次々と指名され、毎時間びくびく緊張の連続だった。

上級に進むにつれ進学の問題が迫ってきた。同級生の多くは当時の高等学校を経て帝国大学への進学が第1志望であった。貧しい農村育ちの私にとって、このようなエリートコースは高嶺の花でしかなかった。

当時は村の素封家の子弟でさえも、師範学校に入っ

て小学校の先生になることがお決まりのスタイルだった。私は父親の切なる願いでもあったので、東京高師を志願し、中学校の英語教師になろうと決心、昭和12年12月、私は幸運にも東京高師の入試に合格、やがて英語教師を目指して人生コースをあゆむことになった。

昭和16年12月8日、日本軍の真珠湾奇襲攻撃から始まった大東亜戦争が勃発。専門学校や大学を卒業した第13回生の多くは戦場に赴く運命が待っていた。

4年終了で当時の東京商大に合格したK君は卒業と同時に、当時のエリートコースの海軍主計中尉に任官、硫黄島の海軍守備隊主計官として従軍、やがて玉砕の悲運が待ちかまえていた。

ちなみに赤木校長のご三男正彦氏（第9回生）も東大（法）大蔵省から海軍主計中尉に任官、駆逐艦乗務の主計官として従軍中、米海軍の潜水艦に撃沈されて戦死。赤木校長はこの悲報に大変嘆かれたそうである。

昭和18年10月、大学・高専学徒に対する兵役免除の恩典が解除され、明治神宮外苑において出陣式が挙行された。ただ、教育関係の東京文理大や東京高等師範学校の学生・生徒は、卒業するまで兵役免除の恩典があった。

卒業に当たって、海軍には英語を専攻した学生は情報関係の士官になれる部門があると聞いていたので、私は海軍予備学生を志願し、順調に希望通りのコースに進むことになった。

横須賀海軍通信学校で暗号解読や無線傍受をたたき込まれ、卒業と同時に海軍少尉に任官し、大和田通信隊に配属された。8時間制の当直勤務で、3回のうち1回は深夜の勤務であった。主たる任務は、鹿児島島の鹿屋基地から出撃する特攻機の戦果を報告することであった。

特攻機は片道の燃料しかなく、敵艦に体当たりして撃沈させることが任務であった。特攻機は米軍に「bogy」と呼ばれ、恐れられていた。迎え撃つ敵戦闘機や艦艇からの対空砲火は熾烈を極め、「bogy」が次々と打ち落とされる敵の放送を傍受することはまさに断腸の思いであった。

やがて米軍の沖縄上陸、ドイツの無条件降伏、ソ連の参戦、広島、長崎への原爆投下が相次ぎ、サイパンはじめ南方の島から飛び立つB29爆撃機の投下する焼夷弾によりわが国の地方都市も大部分焦土と化した。万策尽きてわが国もポツダム宣言を受諾せざるを得なくなり、終戦となった。

敵は物量作戦、われに大和魂あり。わが陸軍がもっとも得意とした白兵戦、夜襲作戦も米軍の火炎放射器にひとたまりもなく、たちまち黒こげの死体となるのみで、悲惨さを極めた。

戦後は湘南高校で英語を教えること10数年、その後、県教委の指導主事に就任、さらに神奈川大学外国語学部と相模工業大学（現湘南工科大学）で英語教育にいそむこと20数年。

湘南中学入学から戦後、英語教師として教壇に立つまで、わが人生の激動期であった。

支部 だより

藤沢支部

昨年秋に幹事会の役員の交代があり、支部長：加藤（37回）副支部長：石原（43回）・石戸谷博範（48回）が担当することになりました。太田前支部長には大変ご苦労様でした。

さて、藤沢支部では例年8月の最終土曜日に「夏のつどい」を開催しております。昨年は、吉川氏（34回）をお招きし「最新演歌事情」と題し楽しいお話や普段聞かれない話など伺い、勇気と感動を与えていただきました。その後立食パーティーでは懐かしい話に華を咲かせ、懇親を深めることができました。（106名参加）

本年は8月29日（土）午後6時から楽しい企画を練っております。詳しくは湘友会ホームページにてご案内致しますので、お誘い合わせの上ご参加下さい。

<P.13に写真掲載>（加藤 37回）

鎌倉支部

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動していますが、今年は5月16日（土）5時から、鎌倉の小町通りの二楽荘で幹事会が開かれ、川井校長先生にもご出席いただいて母校の様子を伺い、支部の活動については、来年の9月にはしばらくぶりに総会を開こうと話しました。

この幹事会は毎年春に開かれ、鎌倉・逗子・葉山の過去・現在に在住・在勤の方なら誰でも自由に出席できますので、気軽に下記へご連絡ください。

事務局：志賀野（47回）

（内海 31回）

茅ヶ崎・寒川支部

総会は、勤労感謝の日（11月23日）に53名の会員参加と川井校長・田辺会長をお招きして、阿部浅本店で開かれた。

講演会は國學院大學・栗田尚弥先生の「太平洋戦争と茅ヶ崎」と言うお話をお聞きした。第二次大戦末期にノルマンディー上陸以上の作戦（コロネット作戦）が米国内で計画されていた。もし1945年8月に戦争が終わっていなければ半年後には1000隻を超える戦艦から、数十万人の連合国軍が茅ヶ崎を中心とした湘南海岸に上陸し首都圏を目指したと云う。特に地元で生まれ育った者にとって、当時の噂話なども記憶にあり、わが身に重ね合わせて興味深く聴き、今平和であることの尊さを実感した。同窓会と云う性格からしては少しハードな話題であったかもしれないが、後世に伝えていくべき史実と思った。後の懇親会でもその話で盛り上がった。
<P.13に写真掲載>（森 35回）

平塚支部

平成20年度支部総会・懇親会を、2008年11月29日（土）17時から、グランドホテル神奈中平塚で、川井校長にご出席いただき、支部会員30名余の参集のもと開催しました。

総会、バンド演奏、懇親会と和やかな時を過ごしたあと、校歌・応援歌を斉唱し散会しました。

<P.13に写真掲載>（田中 36回）

横浜湘南会

2008年6月2日（月）午後6時30分より、相鉄グループの横浜駅西口「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」にて、第18回“横浜湘南会”を開催。

恒例の小栗君（60回）の名司会のもと、渋谷支部長（33回）の挨拶に始まり、天野君（31回）より湘友会の現況報告があり、新堀君（25回）の乾杯、初参加の会員紹介があり、常連や新顔入り交じって思い出話や商談に華を咲かせ、賑やかに初夏の一夜を過ごしました。

最後に校歌斉唱・エールで散会。（片岡 37回）

学年 だより

20回5卒の会

2008年11月23日に卒業63年目の同窓会が開催された。参加者は28名と例年より少ない人数であったが会は盛会であった。

参加者全員の写真撮影後、初見君の司会のもとに開会、今年の代表者 高井君の挨拶、永楽勉、山下秀穂、河内山明君ほか117名の物故者の冥福を祈り黙祷、続いて健康に関するアンケートの報告があった。アンケートによると傘寿を過ぎた我々が心がけていることは、身体的には歩くこと、精神的には公民活動に参加、食習慣は魚野菜を中心とした3点が健康法であることとして挙げられた。

辻橋君音頭で乾杯、懇談に移り、時のたつのを忘れるくらいであった。最後に東君の指揮で校歌を斉唱、原田君の挨拶で来年の11月23日に再会を期して閉会した。（青木）

20回4卒の会

卒業63年傘寿記念総会と銘打った平成20年度総会は、2008年10月6日（月）昨年同様藤沢産業センターで開催された。我々入学当初は約300人の同級生であったが、卒業以来63年経ち物故者145名、消息不明者23名となった中、48名の元気な会員が出席した。

開会に先立ち、下里君による恒例の記念写真撮影後、君塚君の司会により第1部開会。植木会長より、まず本日出席の会員に対し謝意が述べられ、ついで、我々が目出度く80歳の傘寿を迎えられたことに対するの

労苦を称え、お祝いとねぎらいの言葉が、さらにこれからは「怒らず、転ばず、風邪引かず」を養生訓として、健康に留意して行こうとの話があった。次いで黙禱 訃報はこの1年で45組担任の春原淳三先生が亡くなられたほか生徒7名、細君の指揮により校歌斉唱、秋元君による会計報告、鳥海君より監査報告、役員改正の提案等があり、原案通り承認され第1部を終了した。

第2部の宴会は加藤君の司会で開催された。開会冒頭、加藤君より同期の小泉君（鎌倉美術家協会会員・一水会常任委員）が、100号の風景画・油彩「伊豆の海」の大作を鎌倉市に寄贈された旨、および昨年10月に亡くなった同期の久保昭三郎君の戯曲「戦争が終わっても」が総合演劇雑誌「テアトロ」(2008年9月号)に掲載された報告があった。また久保君の親友であった柏木君により、久保君が板倉万蔵の名で、「人間の条件」を芸術座で森繁劇団で演出し好評を得たことを始めとして、絵画、彫刻にいたる彼の生前の活躍ぶりが涙ながらに語られた。開宴のシャンパンによる乾杯は東京地区幹事をつとめる根岸君が音頭をとり、80歳とは思えぬ元気いっばいのスタートとなった。華やいだ楽しい歓談、旧交の時間は瞬く間に経過、終宴の時を迎え堀江君の閉会の辞、安川君の一本締めで名残ききめも一同来年の再会を期してお開きとなり、「紅白最中の傘寿記念品」と「記念写真」を受付係の藤沢地区会員から受け取り、家路についた。

<P.13に写真掲載> (妹川)

27回生 不作会

27回生同期会の正式名称は「湘南27期会」ですが、時に、自称や他称で、「不作会」となっています。

湘南27期会は毎年6月に総会を開催することとしており、2008年度総会は、6月20日(金)に横浜ベイシエラトン ホテル&タワーズで行いました。我々の学年は卒業時約400名が0から9の10クラスに分かれていて、毎年の総会の準備、運営は持ち回りで、担当クラスが行うこととなっています。2008年3月の定例幹事会で「もう一回り、あと10年続けよう」との申し合わせがなされ、その第1回目として、2008年度は我々30組が担当となりました。

総会の準備に入ると、現会員数が300名となっており、年々4、5名が他界されていることに、さみしさを感じさせられました。そんな現実には押されないようにと、無事に1年間が過ぎてこられたことを共に喜び合い、新しい活力を求め合い、親睦を深める総会・懇親会を願って企画の打合せを続け、総会開催日となりました。

当日は会員105名と来賓の先生方2名、計107名の参加を得、総会の議事は順調に報告、討議、承認され、ご来賓としてご挨拶いただいた小山先生の教室での講義を思い出させられるようなお話と、川井校長先生による母校についてのお話には不作会の不作な会員全員が神妙になっておりました。

懇親会には毎年特別プログラムが用意されますが、2008年度は故人となった会員、34組星谷光一君の夫人星谷さんが主宰するハワイアン・フラダンス教室の15名の女性による演技が30分間にわたり披露され、会場全体が非常に盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。

偶然ですが、現在6名の在米会員のうちニューヨークで医師をしている33組中沢君からの今回の総会案内への返信に、「現役引退後、アンチエイジングのドクターとして老人の若返りや活力を与える仕事をしている」という便りがありましたが、我々の特別イベントは、まさに「医者いらずの若返り」と自画自賛、年齢を忘れて大いに盛り上がりました。

以上のような不作会の2008年度総会の諸行事は7月26日の反省会で終わりましたが、その日から2009年度の担当クラス(31組)による企画が始められています。 <P.13に写真掲載> (30組幹事 武井)

28回生

去る2月8日(土) 横浜エクセル東急で同期会を開催した。出席者数は95名。卒業時411名だったから上々の出席率である。

今年は大半が後期高齢者の仲間入りをする。お互いの健康と再会を祝して保坂君の音頭で乾杯をする。久々の開催ということもあって、大いに盛り上がり、談笑の輪があちこちに広がっていった。

予定の2時間はあっという間に過ぎ、最後に梅沢君の指揮で校歌を斉唱。白秋作の歌詞の重みを味わいながら、これを歌ったあの時この時を思い浮かべながら皆一つになって歌った。中沢君による一本締めで会を終える。名残りを惜しみながらも、暖かな余韻のある充実したひとときだった。(堀田)

30回生

恒例の同期会(第17回)は、2008年9月26日(金)午後3時より、グランドホテル湘南に於いて開催。小山、雨宮、竹下各先生をお迎えし、アメリカ在住者も参加して我々仲間98名が参集、今は亡き恩師・同期生に黙禱を捧げたあと、例年同様和気藹々、同期の繋がりを一層深めた一時でした。

本年度の同期会(第18回)は、10月23日(金)午後3時より同ホテルにて開催します。

又、卒業50周年を機に発足した「悠稀会」の第3回展示会は、2008年8月26日から31日迄、茅ヶ崎市民ギャラリー展示室にて開催、新出品者もあり、又、多くの来場者がありました。

本年度の第4回「悠稀会展」は、2009年10月6日(火)から11日(日) 同展示室で開催します。(P.14に続く) 湘友会ホームページには、4年前に開催した「卒業50周年



第3回 悠稀会展会場

記念作品展」及び第3回「悠稀会展」の作品を掲出して
おりますのでご覧下さい。(遠藤)

いろいろ湘友会

31回生

他の同期会の報告と違って、同期会の予告をさせて
いただきます。

卒業後53年経ち、16回目の同期会を、野球部で甲
子園や母校の監督で活躍し、鎌倉市長も務めた中西君
に講演をお願いして開くことになりました。また湘友
会会長を6年間務めた天野君のご苦勞もねぎらって行
います。友人を誘ってご出席ください。

尚、案内のはがきは出す予定です。

日時：2009年9月19日(土)16:00~19:00

(受付15:30~)

場所：鎌倉芸術館 ☎0467(48)5500

(大船駅東口より徒歩10分 大船中央病院そば)

内容：中西君講演「思い出すままに」(約1時間)

その後懇親会

会費：7,000円

連絡先：内海

(内海)

36回生

「66歳の文化祭」のお知らせ

*日時：2009年9月26日(土)

文化祭(16:00~17:00)パーティー(17:30~19:30)

*場所：藤沢 リラホール (藤沢駅南口徒歩3分)

文化祭の内容

舞台：クラシックからポピュラーまで色々なジャ
ズの音楽やパフォーマンスを計画

展示：絵画・書等ロビーに展示

希望者による陶器作成・展示も企画

(渋谷君の陶芸場で作陶の予定)

舞台・展示共に参加者募集中。こういうことを趣味に
されている同期生の情報を、各クラス幹事又は片岡ま
でお寄せ下さい。正式なご案内は後日郵送致します。

(35組幹事 片岡)

48回生 波の会

1973年(昭和48年)卒業の同窓会『波の会』は、
卒業20年を記念して始めました。40代までは4年に
1回、50代は2年に1回、60代は毎年開催する決まり
です。54歳の昨年は、石川旭先生・中村光利先生・鈴
木巍也先生・山田勉先生をお迎えして第6回目を数え
ました。毎回120名前後の仲間が藤沢のグランドホテ
ル湘南に集まってくれます。

「波の会は結束が堅い」と山田勉先生のお褒めの言
葉に乗せられて、湘友会総会のお手伝いも既に2回さ
せていただいております。

皆元気で70代になっても波の会を続けて行き、湘南
高校100周年の節目には、大いに盛り上がろうと話し
ております。(柴野)

秀麗会(英語研究部OB会)

2008年11月16日(日)、JR桜木町駅徒歩5分の
レストラン「ガス灯」(三愛ヨコハマホテル)におい
て、第29回総会を開催しました。「秀麗会」は、英語
研究部OB会として1980年(昭和55年)に発足して
以来、活動を継続しています。会員数は現在69名です。

当日は、総勢23名が集まりました。幹事の進行のも
と、最初は阿部会長(46回生)の開会の挨拶と乾杯で
始まり、歓談では皆さん懐かしくまた様々な話題で盛
り上がりました。その後、恒例の全員の近況報告を行
いました。昨年同様に総会初出席で高校卒業以来始め
てという人もいて、お互いに懐かしくも新鮮な再会と
なった楽しいひと時でした。来年度は30周年記念でも
あり定例の総会以外のイベントを行い盛り上げたいと
いう意見が多数出ました。あつという間の約3時間の
会はお開きとなりました。11月の第2、3日曜日に交
互に開催しており、今年度は11月第2日曜日の開催予
定です。 <P.13に写真掲載>(外崎 54回)

サッカー部OB会

約900名の会員があり、1月に初蹴で蹴球祭、3月
に筑波大付属定期戦、8月のお盆に現役激励会、12月
にOB会報の発行をしています。2年に一度、現役が
スペイン遠征を行っており、OB会が主催・協力をし、
OBが随行しています。会長は36回の井上さん。
HPアドレスは、<http://www.shonan-soccer.com/>です。
サッカーを楽しんでいる会員が多く、若手は湘南トト
カルチョというチームで県リーグに参加。40歳以上は
湘南ペガサスというクラブを作り、同年代でサッカー
の試合を年間20~60試合行っています。ペガサスは、
40歳、50歳、60歳、70歳の年代別チームを5つ持ち、
全体で約130名の会員で、湘南OBが1/3程度です。
(事務局 関 48回)

湘吹会(吹奏楽部OB会)

本会は会員相互の親睦、現役生への援助と、演奏活
動を行っています。卒業生と現役の交流会である定期
演奏会は今年の3月で29回もの開催となりました。
平成20年の活動概要は、(1)第28回定期演奏会：
2008年3月30日藤沢市民会館にて開催 OBマーチ
出演者59名 同日第27回湘吹会定期総会を開催。
(2)会報の発行：機関紙“WINDS”第24号を発
行。川井校長が定期演奏会にお越しくださり、多くの
卒業生と懇談された事が、会報に寄稿いただく契機と
なりました。また機関紙のバックナンバーを校史資料
として保存いただく事になりました。(3)会員名簿の
発行：今回は4年振りの改訂となりました。18回生を
筆頭に83回生まで、登録総数は1,302名となってい

ます。(4)役員会は年間5回開催し、他に会報の編集会議や定演の練習と活発に活動しております。
(名井 32回)

コルリ会(生物研究部OB会)

半世紀の時を越えて! 生研OB感激の再会

湘南中学以来ずっと活動を続けてきた湘南高校生物研究部は1950年代にOBがコルリ会というOB組織を作り、活発に活動していた。特に1957年には西丹沢地蔵平のいまは無き小学校に8日間の合宿を行った。しかし、1963年の東丹沢の合宿を最後にほぼ半世紀の間、活動がなされなかった。この度、有志の呼びかけで還暦以上のシニアOBが再会の会を2月28日、藤沢の銀座アスターで開催した。参加者は昭和26年卒から43年卒まで、遠くは北海道など各地から会員の約半数の44名に及び50年ぶりの再会の感激に浸った。話してみれば、自然の愛好に燃えた若者の集団に戻り、部室での日々、ノセ(市瀬先生)さんの思い出などを語り合った。 <P.13に写真掲載> (嘉納 31回)

福祉湘友会

2008年7月19日(土) 藤沢市民会館にて、古川さん(46回・尼崎医療生協あおぞら生協クリニック発達相談員)を講師に「発達障害をもつ子どもたちの心に寄り添う」をテーマに研修、懇親会を、2009年1月17日(土) 藤沢市民会館にて総会・新年会開催。7月の研修会には浦和高校OBで、湘南でもPTA会長を2期務められた方が障害福祉に携わっているということ

で、特別参加されました。次回も藤沢市民会館にて、7月第1~第3土曜日に研修・懇親会を開催の予定です。

福祉湘友会は「福祉」を福祉施設の現場にのみ狭く捉えるのではなく、地域で、職場(民間企業の福祉産業への参入も含め)での福祉への関わりを幅広く捉え、福祉に関わっていると考えるすべての湘南中学・高校の卒業生の親睦・交流・研修の場です。まだ参加されていないOB・OGの方、是非一度下記幹事までお問合せ下さい。
(奈倉 37回)

全37回 奈倉

全46回 小林

湘籠会(バスケットボール部シニアOB会)

第14回 湘籠会報告

湘籠会は卒業後42年を経て、還暦を迎え入会のユニークなOB会です。第14回の会合は新しく会員となる42回生6名[同期10名]を迎え、過去最高の49名の出席者で大いに盛り上がりました。

席上「湘籠会は会員も増えてきた。何らかの形で現役と接点を持ち、支援できないものか」との発言もあり、OB会として今後どのような対応が出来るのか、忌憚のない意見を会員に募っています。

今年の総会は、6月13日(土)16時30分~ 横浜駅東口・崎陽軒本店で開催です。 <P.13に写真掲載>
(湘籠会会長 安田 25回)

湘友会事務所より

*** 記念品販売中 (価格は送料込み)**

湘友会名簿(5,000円) / 湘高新聞復刻版(3,000円)
80周年記念誌(1,800円) / 絵はがきセット(700円)
歴代校舎写真入りテレカ[50度数3枚組](1,200円)

*** 寄稿に関するお願い**

同期会、クラブOB・OG会、各種湘友会からの寄稿をお待ちしています。原稿(300字程度・字数が多い場合は、やむを得ず割愛させていただく場合もあります)・写真(1枚)を、連絡先を明記の上、事務所まで直接お送り下さい。データCDの直送や、文書ファイル添付で、メール送信していただいても結構です。
2月末日締切期限厳守でお願いします。

なお、記事の掲載にあたっては、基準を設けさせていただいておりますので、ご不明のときは事務所にお問い合わせ下さい。ご協力よろしく申し上げます。

*** 住所変更連絡・物故者連絡**

住所変更は、湘友会HP、E-mail、葉書、またはFAXで、湘友会事務所宛ご連絡下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

*** 新入生向け小冊子「秀麗の富士湘南」第3版発行**

湘友会では、2007年度より、新入生(全日制)を対象に小冊子を配付しています。

第3版は、湘南高校の歴史を中心に、「ようこそ湘南高校へ先輩から一言」など内容もさらに充実、A4版、28ページ、フルカラー印刷になりました。

表紙の色は新入生の学年カラーに合わせ「緑」。湘南高校での有意義な高校生活と、新しい伝統作りに役立ててほしいと願っています。

また、入会案内を兼ねた新入会員向け小冊子も第6版を発行し、今春の卒業生に配布しました。

両小冊子とも、内容はHPでもご覧になれます。



*** 「湘友会報」は、26,000部発送、HPでweb版を見ることが出来ます**

事務所では、多くの迷惑メールに悩まされています。送信の際はわかりやすい具体的な件名でお願いします。

湘友会総会 イベント
ミュージカル俳優 沢木順の歌とトーク
～ 永遠に若く、モテル生き方教えます ～
出演 俳優 沢木順氏 (39回)

<出演者のプロフィール>

北海道生まれ、鎌倉で育つ。
本名は、鈴木 毅。

1964年に湘南高校を卒業し、早稲田大学文学部演劇学科に進学する。大学在学中の1967年、東宝ミュージカル「ファンタスティックス」の主演マットに抜擢され、それから沢木順のミュージカル人生が始まる。1975年劇団四季に入団。以後、「ジーザス・クライスト＝スーパースター」ユダ役、「コーラスライン」ポビー役、「キャッツ」ラムタムタガー役、「オペラ座の怪人」ファントム役、「美女と野獣」の野獣役、「ユタと不思議な仲間たち」「エピータ」他、数多くのミュージカル舞台に立つ。

四季退団後、2004年には日本人で初めてのソロミュージカル「YAKUMO - 八雲外伝 -」に挑戦し、大成功を収めている。



今年の公演は、9月・10月に「アイダ」、11月にソロミュージカル「ロートレック」を予定している。
<公認HP> <http://sawaki.net/>
<CD> 「沢木順1st CD ザ・ミュージカル」
「沢木順2nd CD ラ・シャンソン」
<DVD> 「沢木順ソロミュージカルYAKUMO」
<著書> 「僕のミュージカル修業」

出演者からのメッセージ

今回のイベントのキャッチコピーは、「感動なくして歌はなし。聞いて得する面白トーク！これぞ奇跡のパフォーマンス」

プログラム(予定)は、シャンソンやミュージカルの名曲。それと父である作曲家・八洲秀章の曲を熱唱します。

- | | |
|--------|-------------|
| 見果てぬ夢 | ○さくら貝の歌 |
| 君住む街角 | ○あざみの歌 |
| ○メモリー | ○ミュージック・オブ・ |
| セ・シ・ボン | ザ・ナイト |
| 愛の讃歌 | 聖者の行進 |

湘友会SNS会員 大募集中!

湘友会の会員限定のSNSです。(無料です)
湘友会会員全員の登録を目指しています。

会員は200名を超えています
(2009年3月現在)

登録方法

- 湘友会HP <http://www.shoyukai.org/> にアクセス
- ↓
- 「湘友会SNSのご案内、招待メールの請求はここです」をクリック
- ↓
- 説明を読みページ中央の「招待メール送信依頼」をクリック
- ↓
- 氏名、メールアドレスなど必要事項を入力して送信
- ↓
- 入力したメールアドレスに招待メールが届きます
- ↓
- 招待メールにしたがって登録してください

湘友会HPにはこんな記事があります…
一度見てください (www.shoyukai.org)

湘友会の動き、支部・OB・OG会開催案内/開催報告 湘友会ネット図書館
母校の動き、思い出の写真(写真館)、湘友会報ほか



会員になったら・・・

- コミュニティは同窓会やOBOG会の連絡にも便利です
まずは幹事さんがSNSへの登録を
- 他メンバーの公開された日記や投稿を読めます
同窓生の意外な一面が見られるかも・・・
- 日記を書くことができます
その日の出来事などを気軽に書いてください
日記を全員に公開/マイフレンド限定で公開、
などを自由に選べます

♪ 「校歌・応援歌CD」は
湘友会事務所で直接購入することができます ♪
湘吹会(吹奏楽部OB会)作成
校歌 湘南健児の歌 五丈原頭 青春の歌 選手を送る歌 若人の歌 応援歌 嗚呼湘南の朝ぼらけ 8曲を収録。(1枚:1,000円)
郵送希望の方はHPで購入方法をご案内しています。

第51号 編集スタッフ

(略)

藤沢支部「夏のつどい」



2008年8月30日(土) グランドホテル湘南

27回生同期会



2008年6月20日(金) 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

紅白歌合戦に出場されますよー！

茅ヶ崎・寒川支部総会



2008年11月23日(祝) 阿部浅本店

秀麗会総会



2008年11月16日(日) レストラン「ガス灯」

平塚支部総会・懇親会



2008年11月29日(土) グランドホテル神奈中平塚

コルリ会再会の会



2009年2月28日(土) 藤沢・銀座アスター

20回4卒の会総会



2008年10月6日(月) 藤沢産業センター

湘籠会総会



2008年6月21日(土) グランドホテル湘南